3. 未婚男性の子ども、子育てに対する意識

辻　明子

本章においては、未婚男性の、子ども・子育て意識についてインタビュー結果を中心に分析を行う。なお適宜、昨年度（平成15年度、2003年4月～2004年3月）に行った、大量観察調査（未婚者に対する子どもの価値と出産・育児に関する調査：VOCY 調査）の結果[1]を適宜提示しつつ論を進めることとする。

1.はじめに：インタビューデータの取得方法

・調査対象者

首都圏に在住20歳代の未婚男性15名が調査対象者であった。対象者は、次の2つのグループに分かれており第1のグループは、大学生7名、第2のグループは会社員(正規社員)8名から成る。

	対象者	人数	年齢	地域	職業
グループ1	独身男性	8人	20歳代	首都圏	会社員（正規社員）
グループ2	独身男性	7人	20歳代	首都圏	学生

・調査の手続きと手法

インタビューを行う前に，調査の目的と方法についてのインフォームドコンセントを行い，協力者の同意を得た．この後インタビューを実施した．インタビューはICレコーダによって録音し、後日、これを逐語で起こしたものを分析対象とした。インタビューは、フォーカスグループインタビューの手法により進められた。すなわち、似通った属性の集団(この場合は、性別、年齢、婚姻状態、職業、学歴、居住地域)による自由回答を中心にインタビューを行った。

インタビューに先立ち、ガイドラインを作成し、これを元にインタビューを進めることとした。ガイドラインの作成にあたっては、昨年実施した未婚者に対する「子どもの価値観と出産・育児に関する大量観察調査の結果と考察に基づき、次のテーマを中心に進めた。

---

[1] 未婚者に対する「子どもの価値と出産・育児に関する調査」の実施概要は次の通り。なお詳細は、「男性の子どもの価値観と出産・育児に関する研究：平成15年度総括研究報告書」を参照のこと。
調査期間：2003年12月-2004年1月
調査対象者：首都圏大学生の男女
回収数（回収率）：786票(70.1%)
調査項目：基本属性、子どもや家族に関する項目、育児休業制度に関する項目

グループインタビューガイドライン

「子どもの価値観と出産・育児に関する調査」
インタビュー（フォーカス・グループ・インタビュー）：ガイドライン
2005年2月11日午後1時～

参加者（予定）：8人
モデレーター：1人

やり方

1. モデレーターの進行に従ってお話下さい。以下のテーマを中心にインタビューを進めます。
2. 経験、感想、意見を自由に話し合って下さい。
3. 色々な考えがあっても良く、結論に達する必要はありません。
4. 同時に2人以上が話さないようにして下さい。
5. 片寄りすぎないで、全員がほぼ同じだけ話すのが理想です。

記録方法とプライバシーの厳守

1. 話し合いを録音します。
2. 録音を起こし、話し合いの内容をまとめ、分析を行います。
3. 研究を目的以外には、テープや記録にはふれません。公表する際には個人が特定されないようにします。

■テーマ1：基本属性

□年齢、現在居住地域（都道府県及び市）及び出身地域（都道府県及び市）、離家している場合はきっかけなど
□婚姻状態
□同居家族および両親の居住地
　配偶者がいる場合は、配偶者の年齢、配偶者の職業、婚姻期間
　子どもがいる場合は、子どもの人数、子どもの性別と年齢

■テーマ2：結婚の希望

□結婚の希望
□理想の結婚年齢、適齢期意識
□理想の結婚形態と就労形態（自分及び配偶者の就労タイプと子どもの有無など）

■テーマ3：子どもを持つことに関する意識

□将来子どもを持ちたいかどうか
　□子どもを持つ希望の有無とその理由
　□理想の子どもの数とその理由
　□理想の男女の組み合わせとその理由
　□実際の子どもの数の予測（最終的に何人欲しいか）とその理由

■テーマ4：育児・家事への意欲

□育児休業制度があったとしたら，使うか
□育児にどの程度コミットしようと思っているか
□子どもを育てることのコスト感
□具体的な家事参加状況

■テーマ5：少子化の問題意識と育児参加への条件

□現在の日本の少子化問題をどう考えるか
□どうすれば，男性は育児により参加するようになると思うか
□どうすれば，理想の数の子どもを持てるようになると思うか

2.結婚意欲と配偶者

インタビュー対象者に結婚の意欲についてたずねたところ、全員が、結婚希望を有していると回答した。

具体的に妻の就労パターンについての希望を聞いたところ、まず、グループ1（就労グループ）においては、基本的には、子どもが小さいときには妻が家にいることを前提にする意見のみであった。子どもが2-3歳以上になったときの妻の就労については2つの意見が出た。

1つ目が、「専業主婦希望」である。

【就労グループ：専業主婦希望の意見】

B氏　いなければ、別に働いていてもらっていても構わないですけども、子どもができたときに、幼稚園とか大きくなって上がってきたときに、家に帰ったときにカギっ子って嫌だなと思うんです。だからそういうときに、自分もそうだったんですけど、小学校の低学年で帰ってきたときに、まずお母さんに報告するじゃないですか。今日何があった、何があったとか。そういうときに聞いてくれる相手がいないと多分非行に走ると思うんです。（笑）
――　じゃあ、B氏は子どもができるまでは働いて、奥さん。
B氏　まあ、どっちでもいいです。
――　どっちでもいい、働いてなくても。
B氏　（働いてなく）てもいいんですけど、子どもができたら家にいてほしい。
――　それは子どもが小さいときも大きいときも。
B氏　大きくなったら、まあ、いいですけどね。
――　その大きいっていうのはどれぐらいですか。
B氏　高校ですね。高校から、僕自身がもう高校からもう家を出たっていう、独立したっていうのもあるんで。で、今真っ直ぐに生きてるじゃないですか。なんで、自分が、実家のほうの何か風習というかそんな感じなんです。どこの家も、田舎なんでどの家もお母さんが家にいるっていう。
――　家にいたと。ちなみにB氏のお母様はどういう働き方。専業主婦？
B氏　もう専業主婦です。
――　働いた経験は。
B氏　は、ありますね。結婚前は働いてました。
――　結婚を機に。
B氏　やめて。
――　退職をして家に入ったという感じですか。
B氏　そうです。
――　お子さんが大きくなってから復活したっていうことありますか。
B氏　今、まさに一番下の弟が大学生になったんで、それを機に働き始めてますけど。
――　じゃあ、そういうのがいいんじゃないかっていう感じですかね。
B氏　そうです。
――　今、B氏のこういう理想というか、こういうのがいいんじゃないかというのありましたけど、これに対してほかの方ご意見ありますでしょうか。こういうのがいいっていう人、ほかにもいらっしゃいますか。
C氏　基本的にはB氏の意見とかなり一緒ですね。
――　C氏も、はい。
C氏　一つあるのは、僕、ほかの方も含めてですけど、転勤族があるんで、お互いが総合職的な仕事はできないだろうなというのが条件としてかかってきますね。その、いい悪いじゃなくて、そもそも無理と。結婚して二つの世帯をつくる気はないので。もう一つあるのは、B氏のおっしゃったみたいに子どもが小さいときには家にいてほしいっていうのがあるんですけど、僕はB氏と違うところといえば、できる限り子どもがいない間は外に出てほしいとは思いますね。外のかかわり合いは持っていてほしいかなと。
H氏　小学校中学年ぐらいまでは家にいて、そこから働き始めるぐらいがいいんじゃないのかな。
――　H氏は、中学校ぐらい。
H氏　いや、母ちゃんは、僕が小学校の3年生ぐらいから。
――　働いて。
H氏　働き出しましたね。
C氏　小さい子どものころと中学校のとき、その思春期を迎えるころっていうのは、多分かなり子ども的にも不安定で微妙なんで、だれか・・。（笑）いや、微妙なんだろうという、はたを見ても自分の経験でも。だからその微妙な変化を、僕が残るか嫁さんが残るかはそれはわからないですけども、だれか1人が見てあげたいなというのはありますよね。

２つ目が、「専業主婦否定・外での就業重視」である。

【就労グループ：外での就業希望の意見】

G 氏　僕絶対、専業主婦はやめてほしい。子どもが１歳２歳というときに外に出るとは思わないですけど、子どもいないのに専業主婦は絶対やめてほしい。
――　G 氏がやめてほしい理由は何ですかね。何で。
G 氏　経験というか、上の人とか経験者からしか聞いたことないんですけど。でも何か家に帰ると、１日ずっと家にいるわけじゃないですか、専業主婦は。テレビ見て、何かして、帰ってきた瞬間にガーッとしゃべるわけじゃないですか、しゃべる相手がいなくて（笑）。家に引きこもること自体あまり健全な生活と僕は思わないんで。
――　G 氏さんのお母様はちなみにどういう就業形態。
G 氏　B 氏とは全然違って、僕は幼稚園のころからカギっ子で、
――　お母様は、G 氏が小さいころは働いて……
G 氏　働いてた。まあ、パートとかですけど。でずっと働いて、もうずうっと、幼稚園のころからずうっと。まあ、職場は幾つかかわってますけど、そういった感じで今も働いています、ずうっと。
――　じゃあ、やっぱり働き続けてたほうがいいっていうふうには思ってます？
G 氏　それは親がそうだったからっていう気はしないですけど、パートナーがずっと家にいるっていうのは。
――　嫌だっていう感じですか。
G 氏　１人で家で何してるのって。
――　なるほど。
E 氏　でも親から受ける影響って強くないですか。
G 氏　でもいなかったから、寂しかったよ、結構。
E 氏　自分がイメージする何か自分の家族の生活とかって、結構自分が経験したものが一番やっぱりイメージしやすくて、それってやっぱり両親であったりするんで。
――　ちなみに E 氏のお母様は。
E 氏　おれの母ちゃんは、僕が幼稚園に上がるまでは家にいたんですけど、幼稚園上がった瞬間に、獣医の資格を持ってて、幼稚園上がるまではやめてて、上がった瞬間に大学の獣医科病院にまた研究員みたいな感じで入って、小学校行ってる間ぐらいずうっとそこで勉強し直してて、小学校上がっていつぐらいだったっけな、家で開業したんですよ、家の隣の建物で。だから走っていけばいるけども、基本的にはカギっ子みたいな感じだったんで、ちょっと特殊な例かもしれないんですけど。
――　で、どういうのがいいって思いますか。
E 氏　僕は働けばいいと思いますね。
D 氏　これはだから、幼稚園とか通い始めたら子どもが帰ってくるまでにはどっちかが戻っていてほしいというのはありますね、だから。
G 氏　おれもそう思う。
D 氏　だから、やっぱり家に１人でいさせるっていうのは嫌ですよね。
――　D 氏は、働くのは。
D 氏　働いてほしいと思います、だから。
――　ということは非常に限定された時間の働き方をしてほしいということですか。
D 氏　というふうな形になると思います。それは別に。
――　実際は。
D 氏　実際はそうだと。別に僕がパートでもいいんですよね、養ってもらえば（笑）、それは。
――　なるほど。
D 氏　働かないで食えて、まして働かないで食えていけるんだったら、それは。
G 氏　主婦やりたくなってきた。
――　でも本気で思ってないですよね。
D 氏　まあ、そうですね。どちらかといったらきっと僕が終日働いて、奥さんになる人は。
――　家に入って。
D 氏　家に入っててほしいというか、ずっと専業主婦というのは嫌ですね、どうしても。それはやっぱし外の。
――　専業主婦は嫌だ。
D 氏　にはなってほしいとは思わないです。何らかの形で外の世界と接触を持っていてほしいと。
――　専業主婦が嫌だという人ほか、・・嫌だ。
A 氏　僕も嫌なんですね。
――　A 氏も嫌ですか。
A 氏　彼と意見似てるんですけど、やっぱり幼稚園に入る前まではやっぱり働いてほしくないっていうか、子どもの面倒を見てほしいんですけど。入ってからは基本的に、もう５時とかに終わる仕事はやってほしいんですよ。というのは、やっぱり労働者って同じ立場からのものの話し方ができるというか、対等の立場で多分話せると思うんで。一方で専業主婦になっちゃうと、やっぱりこっちが働いて頑張ってるのに、何で、何かさぼってんな的な・・ので。（笑）だから対

等の立場っていう意味で、やっぱり働いてほしいなという。働いてる人の目線でものを話してほしいというか、というのがありますね。

専業主婦否定・外での就業重視派は、家庭内の主婦の家事活動にたいして、あまり価値をおいていない。その代わりに外での就業について、重要なこととしてとらえている。子どもが小さいときには、誰かが面倒をみないとならないために、家庭内にいてもらいたいが、その時期が過ぎたら、就業してもらいたい、これが外での就業に対する肯定派の意見である。

これに対して、専業主婦肯定派（というか家事労働重視派）の意見は次のようなものがあった。

【就労グループ：家事労働に対する肯定的意見】

―― B氏どうですか、こういう専業主婦には否定的な意見を聞いて。
B氏　わかんないですね。専業主婦がいいってわけじゃないです、子どもが帰ってきたときにいてほしいというだけなんですね。うん。ただ問題となる、今対等な立場でものを言うといったときに、もうそれは対等じゃないですか、働くといった意味では。
―― 家のことをやるというのも同じようにということですね。
B氏　そう、それが問題だと思うんですよね。労働時間って違いますよね。その上で同じふうにやってと言われたときに、家事を、それで実際できるのかっていったらできないと思うんですよね。
―― なるほど。
B氏　そうすると何か女の人のほうに負担がいっているみたいな感じにはなるじゃないですか。

こうした家事労働重視派の意見は、家事労働について外での就労と同じような価値を持ったものとしてとらえている。高度経済成長期に確立された性別役割分業について、シンプルに評価をしているといえる。

現実的に、共働きのカップルにおいて、男性の家事従事の時間が非常に短く、片働き世帯とほとんど違いがない（参考表）。すなわち、共働きを行っていて女性が外で働いていても、男性が家事に従事し家庭内の労働を担う構造になっていないので、上記のB氏の、「何か女の人のほうに負担がいっているみたいな感じにはなるじゃないですか。」という指摘はあるいみ正しい。

参考表　世帯の家族類型，共働きか否か，　行動の種類別総平均時間（週全体）－夫・妻
（時間．分）

世帯の家族類型 共働きか否か	仕事	家事	介護・看護	育児	買い物	1次活動	2次活動	3次活動
夫								
夫が有業で 妻も有業（共働き）	7.01	0.10	0.01	0.03	0.11	10.14	8.10	5.36
夫が有業で 妻が無業	6.51	0.08	0.01	0.09	0.14	10.15	8.17	5.28
（夫婦と子供の世帯）								
夫が有業で 妻も有業（共働き）	7.13	0.09	0.01	0.05	0.11	10.06	8.28	5.26
夫が有業で 妻が無業	7.14	0.07	0.01	0.13	0.14	10.06	8.47	5.07
妻								
夫が有業で 妻も有業（共働き）	4.29	3.15	0.04	0.18	0.35	10.02	9.05	4.53
夫が有業で 妻が無業	0.03	4.41	0.07	1.20	0.51	10.18	7.04	6.37
（夫婦のみの世帯）								
夫が有業で 妻も有業（共働き）	4.41	2.39	0.04	0.03	0.32	10.26	8.22	5.11
夫が有業で 妻が無業	0.05	4.06	0.05	0.09	0.52	10.48	5.18	7.54

総務省統計局「平成13年社会生活基本調査」

こうした共働きカップルの、家事労働の非対称性は、従来の性別役割分業の名残と、パート等非正規雇用に従事する場合が多く男女の賃金格差が生じる可能性が高いことなどが背景として考えられる。

子どもが小さいときには、女性が家にいるというパターンを選択する場

合、いったん労働市場から退場し、復活するときにはパートという就業形態のパターンが多いが、こうしたケースだと、男性が外で働いた場合と女性が外で働いたときの経済的パフォーマンスの違いも影響があり、こうした問題が生じる。

しかしながら、近年みられるような、雇用の不安定化は、女性の就労をリスクヘッジとしてカウントする考え方をもたらしている。

【就労グループ：自分の就労リスクに対するヘッジとしての妻の就労】

―― あともう一つ考えていただきたいのは、もし奥さんが働かないとやっぱりお金の問題が、収入がその分少なくなると思うんですけど、世帯収入としては。それは特に問題とは考えないですか、皆さん。働いて……。
B氏 別にお金じゃなくて。
―― お金じゃないところで働いたほうがいいということですか。
G氏 それは働かなくても養える。
E氏 それは多分皆さんが周りを見ていてそう思うのだろうと思って、僕なんかもう、すぐにも飛び出そうとしてるから、絶対嫁にも働いてほしいなと思いますよね。
―― 飛び出そうっていうのは（笑）。会社をやめるっていう意味ですか。
E氏 いつクビになるかわかんないですから、僕の場合は、みんなと違って。
G氏 飛び出そうじゃない、飛び出さされるんじゃ（笑）。
E氏 だから、うん。
―― ただそういう。でもそれは飛び出すためには２人で働いていたほうが。
E氏 やっぱ、断然いいですよね。

上記のように、妻の就労について、「お金のために（リスクヘッジのために）」働いて欲しいという意見と、「お金でない何かのために」働いて欲しいという意見がある。

ここまでみてきたように、就労しているグループにおいて、結婚意欲はある程度共通であるが、家事に対する価値観の違い、そして就労リスクの認知の違いから、妻の就労希望には違いがある。またこうした意見の違いをもたらしたものとして、「準拠集団としての育ちの家庭」が見えてくる。自分の経験（親の就労パターン）については、関係ないという意見もあるが、それを準拠して意見を述べている場面が多々あった。

こうした、就業グループの意見と、学生グループの意見の共通点、相違点をあげてみる。まず共通点としては、子どもが小さい頃は誰かが面倒をみなければならないと思っていること、一部の意見に専業主婦志向があることなどが挙げられる。また同時にアンチ専業主婦も存在している。

相違点としては、「誰かが面倒をみないとならない」場合に、自分がみてもいいという意欲が、学生グループに多々見受けられる点が指摘できる。下記に取り上げたように、自分が専業主夫になっても良いとの発言は散見され、子育てに対する意欲の強さが現れている。

この違いが、世代の違いなのか、就労経験の違いなのか、弁別はできないが、学生グループにおいては、自分以外の誰かが子育ての責任者となるということが前提となっていない。

【学生グループ：専業主夫希望】

f氏 子どもを持つなら、専業主婦になってもらったほうが……。
―― いいと思う？
a氏 僕も理想的にはそうです。
―― それは、a氏君は、子どもと切り離しての……
a氏 いや、やっぱり子どもを想定したときには、という感じですね。
―― ほかの人は子どもを持つにはどうですか。専業主婦がいい、じゃないほうがいい？ 奥

さんも働いているほうがいい？
c氏　好きにやってくれと。(笑)
――　でも、奥さんが専業主婦じゃなくて共働きだったら、やっぱり自分が育児や家事というのはそれなりにやっていかないと、多分回らないというのが想定されるんですけど、それでもどっちでもいい？
c氏　もう自分の子どもですから。
――　自分の子どもだから、どっちでもいいというのがc氏君。じゃ、e氏君はどうですか。奥さんが働いて、自分が早く帰ってきても、専業主婦の奥さんよりはやらないといけないかもしれないですけれども、どうですか。
e氏　専業主婦は、むしろ嫌だというほうかもしれないです。ただ、それは自分の価値観というのでしょうか。それとも変わっていくのか。自分が専業主夫になるかもという意識も含めて…
――　自分が家に入るというのも考えていると、それを含めて嫌なんですね？
e氏　え？
――　それもあり？
e氏　それもあり。奥さん働いてください。私、子どもの面倒を見ますという……
――　……というのもあり？
e氏　……のもあり。
――　逆は？　逆もあり？
e氏　それの逆が多分ない。おれが働きたくないという・・・・。(笑)
――　・・・・・・・。いま男性の専業主夫というのもありだとか、働きたくないかもという意見が出ましたが、同じような、それも自分がオーケーだという人？　a氏・・・・・。さっき専業主婦がいいと言った……
a氏　それは自分が主夫でもいいし……
――　片方がということ？
a氏　そうですね。どっちかが。
――　子どもの面倒を見るためにということですね。
a氏　それももちろん含めて家事全般として。僕は……
――　分担したほうがいいということ？
a氏　そうです。社会的な自己実現よりも抽象的なものだけど、家族というものが大切だと思うんですよ。だから、社会活動というのは最低水準の生活ができればいいわけで。就職にしろ何にしろ。とにかく片方は常にいられて、もう片方は常にそれをサポートできる状態であればいいなとは思っています。ただ、現実問題それが可能かどうかというのは、また別な問題なってきてしまいます。
――　ほかの人はどうですか。自分も含めて、男性の専業主夫はあり得ると。そういうのもありでしょうか。
b氏　自分は働きたい。
――　b氏は働きたい。共働き。
d氏　あまりイメージしていないけど、どうしても専業主婦をやりたいというなら、やってもらってもいいと思うんですけど、専業主婦に対してあまりいいイメージがなくて、あんまり健康的じゃない気がして……
――　どんなイメージですか。不健康……。
d氏　もうちょっと社会に対して働きかけが……。仕事をしたほうがいいんじゃないかなという気がして。仕事はしていたほうが、家事とかもシェアできるし、仕事をしている上での痛みとかもシェアできるから、やっぱり共働きのほうがいいような気がします。
――　その共働きというのは、男性と同じような働き方をすることをイメージする？　それとも、パートタイムで〔10時－4時とか？〕お昼に5時間だけ、保育園か幼稚園の送り迎えには間に合う程度の共働きを意味しているのか、それとも普通に企業に勤めてフルタイムで・・・・・というのを意味している？
d氏　それもあり得ると思うんです。僕がイメージしたのは後者でした。会社。
e氏　aさんの価値観は社会的価値観より家族的価値観を重視したいけど、僕のほうはむしろ逆で、家族的価値観より社会的価値観のほうを重視する人間なので、もしも奥さんがいるとしたら、奥さんにも社会的一員であることをやってほしいなと……。
――　しかしながら、自分が専業主夫もありと？
e氏　あり。(笑)
e氏　結婚するならば、多分奥さんの意思のほうが第一にするだろうなというのがあって、奥さんがバリバリすごい勢いで働きたくて、家族にあんまり手をかけたくないというなら、おれ専業主夫になっちゃってもいいかなというような気もあって。でも、別に普通にシェアしてくれるぐらい余裕があるんだったらば、シェアしたいなという、そんな感じで。

母親の就業 と 問2(4)子どもが小さいときに母親が仕事をすること と 性別 のクロス表

性別			問2(4)子どもが小さいときに母親が仕事をすること				合計
			まったく賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	まったく反対	
女性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	21 35.6%	21 35.6%	15 25.4%	2 3.4%	59 100.0%
		子どもが大きくなってから再就職した	10 11.0%	20 22.0%	44 48.4%	17 18.7%	91 100.0%
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	2 10.0%	7 35.0%	10 50.0%	1 5.0%	20 100.0%
		ずっと家事・育児をしてきた	5 6.3%	18 22.8%	47 59.5%	9 11.4%	79 100.0%
		その他	5 12.2%	6 14.6%	22 53.7%	8 19.5%	41 100.0%
	合計		43 14.8%	72 24.8%	138 47.6%	37 12.8%	290 100.0%
男性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	17 22.1%	26 33.8%	28 36.4%	6 7.8%	77 100.0%
		子どもが大きくなってから再就職した	8 9.9%	19 23.5%	50 61.7%	4 4.9%	81 100.0%
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	1 3.4%	10 34.5%	17 58.6%	1 3.4%	29 100.0%
		ずっと家事・育児をしてきた	3 2.9%	26 25.2%	60 58.3%	14 13.6%	103 100.0%
		その他	2 5.1%	13 33.3%	18 46.2%	6 15.4%	39 100.0%
	合計		31 9.4%	94 28.6%	173 52.6%	31 9.4%	329 100.0%

なお、自分育ちの経験と子育て感への影響について今一度考えてみる。上記の図表は、母親の就業形態別にみた、「子どもが小さいときに母親が仕事をすること」に対する評価（VOCY 調査）である。これを見ると、母親が仕事を続けている場合、子どもが小さいときに母親が仕事をすることにたいして肯定的な見解をもつ割合が高いことがわかる。

3.育児への参加意欲

子どもが欲しいかどうかたずねると、大多数の対象者が子どもを欲しいと考えている。VOCY 調査でも全体の 83.4%が将来子どもが欲しいと回答している。これを、子どもとの接触頻度別にみると、接触頻度が高いほど、子どもが欲しいと回答する傾向が、男女ともにある。

子どもとの接触 と 問8. あなたは将来子どもがほしいですか と 性別 のクロス表

性別			問8. あなたは将来子どもがほしいですか			合計
			はい	いいえ	わからない	
女性	子どもとの接触	頻繁にある	39 95.1%	1 2.4%	1 2.4%	41 100.0%
		たまにある	105 86.8%	4 3.3%	12 9.9%	121 100.0%
		ほとんどない	80 78.4%	12 11.8%	10 9.8%	102 100.0%
		まったくない	22 84.6%	1 3.8%	3 11.5%	26 100.0%
	合計		246 84.8%	18 6.2%	26 9.0%	290 100.0%
男性	子どもとの接触	頻繁にある	28 93.3%	1 3.3%	1 3.3%	30 100.0%
		たまにある	120 81.6%	6 4.1%	21 14.3%	147 100.0%
		ほとんどない	95 82.6%	7 6.1%	13 11.3%	115 100.0%
		まったくない	30 78.9%	4 10.5%	4 10.5%	38 100.0%
	合計		273 82.7%	18 5.5%	39 11.8%	330 100.0%

また、主体的な育児参加（配偶者と同じくらいもしくはそれ以上育児を行うこと）についてみると、男性については、子どもとの接触頻度がが高いほど、主体的な育児参加の意欲が高い。

このようにアンケート調査の結果では、主体的な育児の参加の意欲についてたずねているが、ではこれを深堀するとどのような意見があるのだろうか。

子どもとの接触 と 問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます) と 性別 のクロス表

性別			問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)			合計
			はい	いいえ	わからない	
女性	子どもとの接触	頻繁にある	37 97.4%		1 2.6%	38 100.0%
		たまにある	92 89.3%	1 1.0%	10 9.7%	103 100.0%
		ほとんどない	78 97.5%		2 2.5%	80 100.0%
		まったくない	21 95.5%		1 4.5%	22 100.0%
	合計		228 93.8%	1 .4%	14 5.8%	243 100.0%
男性	子どもとの接触	頻繁にある	24 85.7%	2 7.1%	2 7.1%	28 100.0%
		たまにある	90 75.0%	16 13.3%	14 11.7%	120 100.0%
		ほとんどない	69 72.6%	14 14.7%	12 12.6%	95 100.0%
		まったくない	18 60.0%	4 13.3%	8 26.7%	30 100.0%
	合計		201 73.6%	36 13.2%	36 13.2%	273 100.0%

結局のところ、誰が子どもを育てることを想定しているのか。

「2.結婚意欲と配偶」の最後で指摘したように、学生グループにおいては、カップルの就労パターンとして、一時的な専業主夫容認の意見が散見され、このグループの子育てに関するコミットメント意欲の強さがみられた。とはいえ、全員が強いコミットメントを希望しているのではない。

【学生グループ：子育て意欲】

――　子育て自体もやってみたいなと？
e 氏　はい。・・・・・やっぱり自分に子どもができたとしたら、生まれたその子にちゃんとかかわってあげたいと。
――　子育てしようと思っているかというところなんですけども、自分の子どもなんだから、自分でちゃんとコミットしてできる限りやりたいという意見がちらほら出てきましたが、どうですか。やっぱり子育てなんか夫婦でどっちかがきちんとやれば、コミットしなくてもいいという考え方があるかもしれないし、自分の子どもなんだから自分ができるだけやってもいいという考え方があるだろうし、子育てに参加するということについてどうかなあというふうに思っているか。c 氏どうですか。子育てするつもりがあるのかという……
c 氏　ありますけども、自分が専業主夫みたいになるのは……
――　嫌だ。どういうことを今イメージするという……
c 氏　社会と……。子育てですか。
――　例えば、働きながら育てるというのを、できることをやるというのはやりたい？
c 氏　そうですね。
――　例えば、土日とかは自分がメーンでやるというんでも、全然（オーケー）？
c 氏　それは別に全然いいですけど。
――　すごいやる気？
c 氏　いや、やる気というか、時間の使い方を知らない。土日が使い切れない。それなら自分の子どもといたほうが……。
――　やるのはいい？
c 氏　はい。
――　ほかにどうですか。例えば、子どもの面倒を見るために、保育園のお迎えが自分の担当だとなったとして、8 時までには保育園に行かなければいけないというような状況も受け入れるだろうなと？
c 氏　朝早いのはちょっときつい。（笑）

――　夕方。お迎え。
c氏　・・・・・・・。
――　例えば、それのために、ほかの人は残業してても、そういうのもあるかもしれないということで。
c氏　多分場合によりますよ。
――　でも、一応やる気はある？
c氏　毎日というのはちょっとあれかもしれないですね。（笑）
――　毎日行くことはちょっと嫌という……
c氏　いや、毎日行くことで何か会社の中で気まずいなというのがあったら、毎日やるというのは……
――　そうすると、奥さんがやっぱりそういうのをやる……
c氏　いや、そうですね。半分半分ぐらい……
――　すると、朝はだれが行くんだということが……
c氏　朝たまに行って、夜はたまに行くぐらい（笑）。
――　ご飯つくったりするのも？
c氏　ああ、いいですよ。
――　ほかの人はどうですか。
b氏　いやあ……、やりますね。
――　やる？　何か・・・・。
b氏　何というか、あんまりわからない。想像がつかない。どれぐらい自分が……。ギブアップするかもしれない。
――　ほかの人はいかがですか。
f氏　まだ働いていないから、リアリティーがないというのがあるから。それが前提で……。
――　子育てにやる気は一応あるという感じ……。
f氏　今のところは。
――　別にないという意見も排除するつもりはないんで、ないという意見が……。
f氏　半分半分ぐらいというのは、多分自分の中ではちょっと無理。
――　f氏は無理と。
f氏　（中略）自分の中では働きたいというのがあるから、どっちかというと奥さんにやってもらいたいなというのはありますけど、もちろんやれるところはやります。
――　やれるところはやる。あんまり子育てについては……。子育てというよりは働らくということが第一になるということですかね？
f氏　そっちが第一ですけど。うち、お父さんがあんまり手をかけてくれなかったというか、深夜何時に帰ってきて朝早く出ていくみたいな人だったんで、あんまりそういうのは嫌だというか……。
――　それなりにかかわってはいきたいという感じですかね？
f氏　そうですね。親に対する不信感が微妙に残っていると思っているから（笑）。
――　f氏は不信感が微妙に残っている。だから、かかわりはしていきたいという……。
f氏　思いますけど。
――　今、育児はいいと言っていたんですけど、家事とかもいいですか。
f氏　家事ももちろん同じ分担。
――　半分半分は嫌だけどという？
f氏　いや……
――　できないんじゃないか……
f氏　できないんじゃないか。
――　手伝えるってごみ出しぐらい？
f氏　もちろんそんな感じ。むしろ家事も、ご飯をつくるのは好きなほうなんで。自信はないですけど。

上記のように、現実に働いていないから将来どうなるかわからないとエクスキューズしつつも、妻との育児の分担の困難さを指摘する声は上がった。コミットメントに意欲的な人と、意欲的でない人があるが、主体的にコミットしたいという意見が無いわけではない。

すでに働いているグループに子育て意欲を聞いてみると、メインは女性で、そのサポートという形でのコミットメントをするつもりがあるという意見が多かった。具体的には土日など、自分の手が空いているときにできる範囲で手伝うという意見である。つまり、主体的な育児は目指していない。

【就労グループ：子育て意欲】

――　生まれたばっかりのときに、ふだんは奥さんが日常の面倒を見てることを前提として、その土日、自分が休みのときに奥さん並みにやるつもりのある人。――あっ、すごい！　こんなにいる。５人は、もう置いてってもらっても同じぐらいやってもいいっていう。
G氏　そのぐらいできるようになりたいっていうのも。
C氏　そう、そう。勉強したい。勉強はしますし。
G氏　願望的なところは。
――　やりたい？　やる気はありますか。
C氏　というか、育児っていうか家事をやってあげたい。育児、ただあまり。
――　家事をやってあげてもどっちもいいんですけど、やって、ありたい？
E氏　でもあれだよ、絶対土曜日12時まで寝られないよ、そしたら。
C氏　まあ、それでも、いや。
E氏　７時ぐらいに起きなきゃいけないんだよ。
C氏　いや、嫁さんのためだけじゃなくてさ、自分もその子どもの、その成長でそういう時期っていうのは多分ほんのちょっとしかないんだろうから。まあ、長いのかもしれないんですけど。それは経験したいなとは思いますけどね。
――　C氏は自分のために育児をやってみたいということですか。
C氏　自分のためと相手のため。二つ込み込みです。
――　どうですか。ほかの方、何で育児を、それやってみたいでしょうか。
G氏　そういう意味では能動的ではないかもしれないな（笑）。そういう意味ではちょっと義務感はあるかもしれない。仕事をしてて、まあ、仕事は大変だと言いつつも、ねえ、相手は生き物を相手にしてて、そっちのほうが多分ストレスは大きいと思うし、仕事をしてるっていうのも、何かだべっているときもあるわけで、そういうことであれば、まあちょっとは、日ごろ帰って、飲んで帰ってくることもあるから、ちょっと申しわけないから、じゃあ土日ぐらいはやるよと。
――　ほう。というつもりが（あると）。
G氏　つもりです。

また就労グループにおいては、男女の子育て役割の違いについての意見が多く出た。一方で、学生グループにおいては、男女の違いの意義を（従来の性別役割分業の時のようには）、感じないという意見が出た。

【就労グループ：男女の子育て役割の違い】

H氏　何か母親の子育てと父親の子育ては違うべきだと思っていて。
――　どうですか、ほかの人。今、まあ、でも将来は相談に乗ってあげられるような父親の子育てっていうのはそういうのだと。その父親と母親で子育てが、子どもに対する役割が違うっていうふうな意見ですよね。それはどうですか、やっぱり男の人と女の人では違いますか。お父さんの役割お母さんの役割っていうのは。
B氏　基本的に一緒にはなれないっていうの、まずそもそもあるじゃないですか。おっぱいあげられないですよね、そもそも。その時点でもう違うじゃないですか。
――　B氏はもう全然、一緒にはなり得ない。
B氏　なり得ないですね。一緒のことはできる、近くすることはできますけど、全く一緒はできないと思います。
D氏　同じことをしてあげても多分、違うんだろうなっていう。同じ抱っこ一つでも、おふろに入る一つでも、ことをやってでもきっと一緒にはなり得ない。
――　一緒にはなり得ないと、D氏。それは一緒ではないんだけれども、どっちがいいっていうのもあるんですか。どっちがしたほうがいいっていうのもあると思いますか。
D氏　子育てっていうことを考えたら、僕は母親には勝てないと思うんですよ。父親と母親じゃ同じことをしたとしても。
――　勝てない。
D氏　勝てないというか、やっぱり母性とかそういうのが全然違う。
――　ということは、母親がやったほうが望ましいってことですかね、それは。
D氏　望ましい……。まあどっちかが……
――　だれかがやらない
D氏　基本的にだれかがやらなきゃいけなくなったら、やっぱり母親のほうがいいと思いますね。それは。
――　でも事情があれだったら父親がやってもいいっていう考えですかね。
D氏　例えば奥さんが死んじゃったとか、そういう話になったら。
A氏　極論（笑）。
――　極論、まあね。
D氏　そういう状況だってあり得る話ですからね。

――　なるほどね。あと何かありますか。父親と母親で子どもに対する、子どもに関して違うって。
C氏　小さいころ、男親と女親っていうのは多分子どもに対して違う見方を提示してあげることっていうのは、すごい大事なことだと思うんですね。同じような形をすることはないと思うんですけども。もう一つあるのは、さっきずっと話の中でも、子どもってやっぱり親が一番影響を与えることなんですね。じゃあ子どもが親になったときに、じゃあ、女の子だった場合、子どもを育てられない女の子にするのか、それとも子どもを育てられる女の子にするのかとかいうのが大きいと思うんですよね。B氏が言ったように身体的に女の子はおっぱい出るとか、子どもを実際に産むとか、そういうことがあることは前提としてあるわけなんで、それは覆せないですね。そしたら、やっぱり自然のその法則からすると、女性がメインで男は補助になるのかなと。
――　思いますか。でも土日はかわってあげるつもりはある。
C氏　それは、負担感の分散じゃないですか。
――　それをねらいとして。
C氏　今の分散という、同じことをかわってあげるというのは育児という、ただ泣き叫んでる子どもに対しての処理の話であって、子どもが育ってきたらH氏の言うように、父親が相談役になって、おふくろが細かい私生活のいろんなことやってるというのは、それはあるかもしれないけども。

【学生グループ：男女差についての意識】

g氏　よく言う、男は外に働いて女性が家を守るという感覚はない人が多いんじゃないですか、おれらの世代だと。そういうふうに教育はしているくせに、社会で受けるギャップが突然あるから、何かその教育が生きてない。そういう考えで高校とかで授業に出ていると、頭は普通になる気はするんだけど。まだ働いていないから自分もわからないけど、多分全然そういうふうな教育になれないから……。
d氏　むしろ逆にそういうことを言っているおっさん連中がいると、頭かたいなと思っちゃうかもしれないです。だけど、もしかしたら、そういうふうに言っているおれらの意見というのは理想論的なのかもしれないし。現実に今の社会で働いている人間が無理だと言っているんだとして、その社会が変わらなかったら、やっぱり理想だけで終わっちゃうのかと思います。だから、何とも現実にはない意見になっちゃうのかもしれないですね。

この他に親として、「子どもがやりたいことはすべてやらせてあげたい」という意見が多くあった。こうした、「瑕疵のないおや」を目指す志向は、子育ての経済的負担にもつながっており、子どもを持つことのハードルをあげている可能性がある。

また少数ながら、反対に、親が子どもの範囲はある程度決めることができるという意見もあった。

【就労グループ：子育て観】

E氏　子どもにはやりたいことをやらせてあげたいと思います。（後略）
――　子どもが望むことはなるべくかなえてあげたいということですか。
E氏　だから、その本質によりますけどね。本質っていうか、やりたい、例えばラジコン欲しいとか言ったら、「ふざけんな、てめえ、外で走れ」と（笑）。
E氏　ファミコンは目によくないからやらせないです。
――　例えばすごくお金のかかるお稽古事（けいこごと）とかはいいんですか。
E氏　それだったら、もう真剣にやって、その世界をきわめろと。
――　例えばお金のかかる留学とかしたいとか。
E氏　やってこいと。そのかわりなんか絶対つかんでこいよ。つかんでこないで帰ってきたら、おまえ、わかってんだろうと。
――　じゃあ子どもには、もうできる、そのものがよければ、希望がいいと賛同できればできるだけやってあげる、かなえてあげる。
E氏　そうですね。多分子どもも成長していく過程で多分いろんな年があると思うんですよね。例えば女の子だったらわかんないですけど、ピアノやりたいとか言い出すのかもしんないし、そしたら最初のその初めての段階で、じゃあやってみって言って、それ挫折するようなら、もう二度とお父さんにこれやりたいって言わせないぐらいの、もうつぶし方をして（笑）。相当本当に自分がやりたい、これを一生やっていくんだっていう覚悟ができなきゃお父さんに言わないぐらいの。それを本当に言ってきたんであれば、じゃあ、もう本当、フルフルにもうバックアップしてあげたいなっていう気持ちはありますよね。
――　なるほど、どうですか、ほかの。
C氏　僕はちょっと違います。僕は親が、親が介入するのは大学に入るまでだと思ってま

すんで、大学入ってから、例えばアメフトやりたいとか留学したいっていうのは、それは好きにしたらいいけども、金も全部自分でやれっていうことだけですね。
――　その前、大学入る前に、例えばお金のかかる稽古事をやりたいとかっていう場合はどうですか。
C氏　その大学入る前、中学校とか、高校になってくると大分分別ついてくると思うんですけど、中学校の段階で――こっち側が基本的には握ってると思うんですよね。子どもの自我とか個性とかっていうのは、そこまで確立してないと思ってるんで、親がある程度レール敷くっていう言い方をしますけど、敷いていいと思ってるんで。
――　じゃあ、お金がそんなにかからないようなレールを敷くつもりだということでしょうか（笑）。
C氏　だから、そのときの、だから僕のその経済的なキャパシティの中でこっちが判断すると、すべて。基本的に金かかるのはそうだとは思ってるんで、それはもう自分でやれと。で、２人経済的負担で２人ぐらいかなっていうのが、子どもに全部金を使って老後、中高年になったときに嫁さんと自分で好きなことができないっていうのは、それは嫌だって。だから子どもも好きなことをやっていいけど、自分たちも好きなことをやりたいと。だから子どものために全犠牲になる気はないと。
――　全犠牲になるつもりが、ある人はあまりいないかもしれないんですけど、じゃあ。
G氏　僕全部もうやらせたいですね。
――　全部やらせたい。
G氏　全部やらせたい。
――　G氏、何で全部やらせたい。
G氏　僕が全部やってきたから。
――　じゃあ、もし子どもがいたら全部希望は。
G氏　別にお金を残してあげることも多分しないし、ものを残してあげることも子どもにはしないと思うんだけども、教育とか何かそういう身につけるものっていうのは、残してあげたいなって思うから。ただそれって大学入ってから何か物事を学べっていうのは、もう人としてでき上がっていると思うから、そういう何かやりたいって子どもながらにも思ったものであれば、習い事とかだったらやらせたい。合う、合わないはやってみなきゃわかんないものもあると思うから、それも全部やってみればっていう。
――　なるほど。どうですか、今の意見は。A氏どうでしょう。
A氏　僕も結構同じで、結構。
――　同じっていうのは、G氏と同じ。
A氏　似てますね、やらせたいことは全部やらせてあげたいっていう。
――　ほかにG氏と同じの人は。
D氏　僕もそうですね。
――　D氏。
H氏　僕もそうだと。
F氏　僕も基本的にはやらせてあげたいと。
――　B氏、どうで。
B氏　僕もそうです。

4.育児休業制度の取得意欲

育児休業制度の有無と取得意欲について、就業グループにたずねた結果、育児休業制度はあっても、男性は使っていないという回答であった。「有給休暇もつかえないような会社が育児休暇使うことはできない」という意見をはじめ、育児休業を取得することはあり得ない環境にあるという意見であった。取得の意欲はない。このように制度が整っていても、それを実際に使う環境にないのが現状である。

【就業グループ：育児休業の有無と取得意欲】

――　皆さんの会社には育児休業制度があるでしょうか。ありますか。
G氏　育休はあるよね。
H氏　男にも一応名目上はあります。
――　名目上は。皆さんあるということですが、使うつもりがある人いますか。
H氏　自分がということですか、それとも嫁さんに。
――　自分が。
H氏　自分が。
G氏　あり得ないな。

Ｈ氏　ないですね。
－－　あり得ない？
Ｇ氏　あり得ないですね。
Ｈ氏　使うか使わないかじゃなくて、使えない。
Ｇ氏　使えない。
－－　制度があって、男性でだれか使ってるのを見たこと、聞いたことありますか。
Ｅ氏　・・・でだれも１回も使ったことない。
Ｃ氏　使ったことない制度ですね。
－－　それは何で使ってないんだと思いますか。何で使えないんですか。
Ｅ氏　有給休暇をとらせてもらえない会社ですからね。
Ｇ氏　たまるだけで減ることはない。
Ｅ氏　そうそう有給休暇使えないような会社が育児休暇使えるかっていったら、使えないです。
－－　なるほど。
Ｃ氏　子どもが生まれましたっていっても、会社が率先して、じゃあ育児休暇使っていいよっていう雰囲気にもならない、まず。
－－　ちなみに女性はとってますか。とってる人とか。
Ｅ氏　総合職はわかんない。
Ｃ氏　総合職とってないです。営業職と一般職（がとっている）。

また、学生グループに将来育児休業制度を利用してみたいかたずねたところ、漠然と、現実の世界では取得しにくい環境（出世に響く心配、取りにくい雰囲気等々）を指摘する声が上がった。育児休業制度を利用することによる、仕事へのダメージをおそれている。

実際に就労していなくとも、上記にある、企業内カルチャーについてはある程度予測をしつつ、制度利用を希望しているという状態である。

【学生グループ：育児休業取得の意欲】

－－　たったいま育児休業制度の話が出て、働くという話が出たんで、テーマ４にかわって。皆さん、自分がバリバリ働くつもりなのかということと、それから、もし子どもができたとしたら、育児休業とかやって自分も子どもを育ててみるということいかがでしょうか。仕事休んで子育て期間を持つみたいな、そういったようなことをイメージできるか。例えば今・・・・・というようなことを知りたいのですが、自分が育てる、ａ氏はどうですか。
ａ氏　制度的に確立されていれば使えるとは思うんですけど、ただ日本の場合は、ものすごくそれを暗黙の了解で使わないほうがいいという……
－－　所得の保障というのは、その期間非常に危うい……
ａ氏　継続ですよね？
－－　お金の問題としては多分あるんでしょうが、もしお金を補てんされて、なおかつ働く上で・・・期間問題なければやってもいいと思う？
ａ氏　それは当然そうです。
－－　子育て自体はやってもいい？
ａ氏　はい。
－－　そういうのはあるんですか。
ａ氏　ある。
－－　何年とか何カ月とか、どれぐらいだったらできそうですか。半年とか１年とかいろいろ期間があるんです。
ａ氏　結局、企業が保障してくれる中でできる限りは。
－－　３年でも？
ａ氏　それを保障してくれるんだったら。
－－　その後をですね？
ａ氏　そうです。でも、実際にはそういう保障は多分ないと思います。
－－　給料はないな。
ａ氏　例えば出世とかそういうことに関していえば、まずないでしょうね。
－－　ないと思うからやりたくない。
ａ氏　いや、やりたくないとは思わないですけど、現実的にできるかといったら、多分やめる覚悟でやればということだと思うんです。でも、１年以内だったら、しっかりそれが保障されているんであれば、もしかしたらできるとは思うんですけど。
－－　ほかの人どうですかね。自分が子育てをするというのは、会社の制度なんかを利用して、

自分が主体的に子育てをする期間を持つようなことをやってみたいと思っている人は？今・・・・・・・。

g 氏　理想では。

－－　g 氏の理想では？

g 氏　そうです。それこそ自分の子なんだから、やっぱり仕事をしていたらできない子育ての面とかあると思うんです。それができないと、変な言い方だけど損をしているというか。もちろんそこに大変な面とかもあるのかもしれないけど、逆にそういうことを経験すると、もっと子どもに対しての気持ちとか高まるのかなとも思うし……。ただ、やれる機会があったら、やりたいというのがあるけれども……

－－　ある程度まとまった１年とかという期間？

g 氏　そうですね。ただ、すごい欲を言えば、仕事も休業する前と後とで全く変わらなくやりたいという気持ちはあるので。全く別の次元でこっちもやりたいし、こっちもやりたいという、それが同じぐらいのレベルであるということだから。ただ、それが現実に可能かどうかということを考えると……

－－　無理だろうなというのが……

g 氏　両方 100 で求めているわけだから。となると、制度的にも無理だろうし、制度的に見たら保障があってといっても、1 年間なり何カ月間なり全く仕事をしていないところがあっちゃうと、やっぱりそこに戻るって、本当に無意識のところで難しいところがある。もちろん受け入れる側も、通念として「いいんだよ」という気持ちがこれからすごく普及していったとしても、何らかのしわ寄せはかかってくる。できないところもあるんじゃないかなと思っちゃうから、そうすると難しいのかな。例えば、完全に休むという制度ではなくて、残業がないだとか、そういう意味での休業というような分野がもっとしっかりするんだったら、それが一番いいのかな。働きながらなんだから、やっぱり保育園なり幼稚園なり……

－－　働いている上でブランクをつくることが非常に大きくて、・・・・と思っている……

g 氏　ちょっと怖いというか、いくらオーケーだという認識があったにしても、やっぱりゼロがあるわけだから、そこというのはどう考えても消えないんじゃないかなと思っちゃって……。自分がいくら頑張ってもやっぱり知らないところが出てくるわけで、その意味ではすごい怖いなと思う。だからこそ、仕事にかかわりつつ、そのかかわり方の度合いを、そういう意味での休業というか、ちょっと減らしてあいた時間で子育てするというような形がいいかなと……。

ところで、VOCY 調査においては、育児休業制度の取得の意欲をみると、女性の取得意欲は強かった。男性で取得意欲が強い傾向があるのは、1.主体的に子育てをするつもりがあるグループ、2.母親が就業を続けていグループである。こんかいのインタビューでも、就労しているグループの回答の傾向としては、主体的な子育てをする意欲はあまり無く（そういった就労環境にない）、育児休業制度を利用する意欲の非常に低かった。

問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます) と 問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いますか と 性別 のクロス表

性別			問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いますか		合計
			はい	いいえ	
女性	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	はい	215 94.3%	13 5.7%	228 100.0%
		いいえ	1 100.0%		1 100.0%
		わからない	13 92.9%	1 7.1%	14 100.0%
	合計		229 94.2%	14 5.8%	243 100.0%
男性	問11. あなたは主体的に子育てをするつもりがありますか。(この場合の主体的とは、例えば育児分担の割合が配偶者と同じくらいもしくはそれ以上を担うことをいいます)	はい	174 86.6%	27 13.4%	201 100.0%
		いいえ	23 63.9%	13 36.1%	36 100.0%
		わからない	29 80.6%	7 19.4%	36 100.0%
	合計		226 82.8%	47 17.2%	273 100.0%

母親の就業 と 問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いますか と 性別 のクロス表

性別	母親の就業		問34. あなたは、将来育児休業制度(育児休業、勤務時間の短縮等を含む)を利用したいと思いますか		合計
			はい	いいえ	
女性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	55 93.2%	4 6.8%	59 100.0%
		子どもが大きくなってから再就職した	82 90.1%	9 9.9%	91 100.0%
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	15 75.0%	5 25.0%	20 100.0%
		ずっと家事・育児をしてきた	75 94.9%	4 5.1%	79 100.0%
		その他	35 85.4%	6 14.6%	41 100.0%
	合計		262 90.3%	28 9.7%	290 100.0%
男性	母親の就業	結婚前からずっと勤めを続けてきた	64 83.1%	13 16.9%	77 100.0%
		子どもが大きくなってから再就職した	60 74.1%	21 25.9%	81 100.0%
		ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	24 82.8%	5 17.2%	29 100.0%
		ずっと家事・育児をしてきた	81 78.6%	22 21.4%	103 100.0%
		その他	27 67.5%	13 32.5%	40 100.0%
	合計		256 77.6%	74 22.4%	330 100.0%

5.その他

この他、学生グループから、地域で子どもを育てる重要性について次のような意見があった。

【学生グループ：地域育児】

g氏　僕なんか小さいころずっと共働きで、血縁関係は全くないけれども、知り合いのおばさんという人が迎えにきてくれて、親が仕事から帰るまで、多分８時過ぎとかまでそこの家に預かってもらっていてということをしていたんで、そういうことがもうちょっとできるようになってくるんだったら……。多分昔は一つの家族が、社会とのいろいろなつながりを持っていたからこそ地域的にできたんだと思うし。それがどんどん孤立してっちゃうと、多分そういうのが難しくなって、保育園に子どもを・・・・といって。でも、実際保育園で遅くまでやっているところがあるかというと、いま少ないわけだし、どんどん保育園の数だって、それこそ少子化で少なくなってきていて選べないという状況、入れないという状況があるから、何とも言えないんですけど。どこかが抜けたら、そこをだれかがサポートするみたいな形でやっていくと、何とか回るんじゃないかなと思います。

ーー　例えば、いま割と各核家族と公的な正規の保育園みたいなのだけで回そうというのをイメージするかもしれないけれども、それだけではなくて、近所のおばさんであったり、何かほかのツール、ほかの手段というのも、回るようにすれば・・・・・・という……。

g氏　回ります。そこが中心というよりも、それよりもどちらかといったら保育園が違う形に進歩していくことのほうが、やっぱり現実的なのかもしれない。実際知らない人ではないだろうけど、他人に預けて、しかも施設ではなくてというところに預けるというのの怖さは、多分今の世の中あるだろうし、ベビーシッターといっても、例えばアメリカだったら、そこですごい問題がいろいろ起きていてというのがあるから、何とも言えないのかなと思うんだけど。そういった親戚の関係が安全かなと。

a氏　僕は、社会システム的に核家族というのがもはや限界に来ているのじゃないかと思うんですよ。結局核家族で孤立したり、自分の子どもは自分で育てたいという要求が強いことが、ある意味では少子化にしても何しても問題になると思うんです。

安心した教育システムは何によってもたらされるのかというのは、私立教育でも公教育でもいいとは思うんですけども、結局僕も含めて親になる人たち、社会人になる人たちがその教育システムの中で何が行われていて、その教育が本当に自分の子どもや社会に生きていく子どもたちにとっていいものなのか悪いものなのかを担保する目であったり、それに対して発言する権利があったり、それによって改善されるようなシステムであることが重要だと思うんですね。

そういう意味では、システム的に制度化されている核家族の中で、お父さんとお母さんはいつも笑顔で子どもを見守っているというような理想像は多分近代にでき上がったものなんでしょうけど、すごく新しいものであって、別に普遍的なものではないと思うんで、そういうものにとらわれる必要はないと思うんですけど。

ただ、社会における子どもたちがどういう教育を受けていて、その中でそれがどう改善されていくべきなのかということを、今までは大人たちは自分が働くのに忙しいからとかパートで忙しいからという理由で、そこには目を向けないで、いくらお金がかかるかだけの勘定をしてきたという部分があると思うんですね。それをもっと中に目を向けて、どういう教育が行われていて、それが本当に子どもたちにとっていい教育なのかどうかについてみんなで議論したり、それに対してどうやったら改善できるかというようなシステムが、社会の中に必要なんじゃないかということを考えて、地域教育的なものをやりたいと思っているんですけど。そういうかかわり方がやっぱし……

ーー　教育と子どもを育てるということを、地域教育面に関しては親の手に引き戻すというか、そうやって共有化させてコミットしていくという、お金を払うとかそういうことではなくて、実際に汗をかいてという……

a氏　そうですね。それぞれがコストとしてかかわれる時間を提供することが必要なんじゃないかなと思って。

6.まとめ

ここまで、未婚者の抱いている理想の家族や子育ての関与の仕方などについて、インタビュー調査を中心にみてきた。今回の対象者は未婚者は就労していても学生であっても、総じて結婚意欲もありまた子どもを持つ希望も高かった。（一部そうでない対象者もいた）

彼らの抱く、希望する妻の就業状態は、「家事労働」にたいする評価によって異なる。家事労働と賃金労働とを同等に価値あるものと考え、専業主婦の配偶者を希望するものがい

る一方、家事労働に対して価値を置かず配偶者に賃金労働を求めるものも多かった。こうした家事労働に対する価値観は、自分の育ち（母親の就業状態など）が影響を及ぼしていると考えられる。またこれとは違った文脈で、自らの就業リスクのヘッジあるいは、「専業主夫」容認を視野に入れた意見など、近年の雇用の不安定化や男女の賃金格差縮小などを背景にした考え方も見受けられた。

子育てに主体的に参加することについては、まず、就労グループにおいては「できるかぎり」協力する＝主体的な育児をめざすものではない。前提として、自分以外の誰か（配偶者）が責任を持ち子育てを行うことがあり、あくまでもサポートを行うというスタンスであった。学生グループについては、専業主夫すらかまわないという意見があるように、幾ばくか主体的な取組意欲が見受けられるが、人によっては、一歩引いた参加の仕方しかできないといっている。

また、男女で子育て上の役割が異なるという意見が、就労グループから出てきた。これにたいし、学生グループからは、男女の違いとそれによる役割分担について違和感を感じるという意見が上がった。

子育て観としては、「瑕疵のない親」「子どもの望むことをなんでもかなえられる親」になりたいというものが多くを占めた（就労グループにおいて）。「なんでもかなえられるため」には経済的負担に対する備えが必要となり、子どもを持つことのハードルが高くなっている可能性がある。

育児休業制度については、現実にはほとんど取ることはできず、取得もあきらめているというのが現状である。強制的に取得するようにする、罰則規定をつくるなどしない限り、制度の利用は難しい。

参考文献

赤川学、2004年、『子どもが減って何が悪いか』ちくま新書.

岩澤美帆・三田房美、2005年、「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展（特集　仕事・出会い・結婚）」『日本労働研究雑誌』、47号1巻、pp.16-28.

内田哲郎、2001年、「父親の育児？：「父親育児推奨論」にみる男性の育児参加の理由づけ」『家計経済研究』、50巻、pp. 32-38.

佐藤博樹、2001年、「日本における「ファミリーフレンドリー」施策の現状と課題」『家計経済研究』、50巻、pp. 11-17.

佐藤博樹・武石恵美子、2004年、『男性の育児休業：社員のニーズ、会社のメリット』中央新書.

未婚インタビュー対象者

	年齢	学歴	婚姻状態	子の有無	居住形態	母親の就業	結婚の希望	理想の結婚年齢	結婚年齢の理由	子どもが欲しいかどうか	理想の子供数	理想の子供数　理由
A氏	26	大卒	未婚	無し	寮	ずっと家事・育児をしてきた	有	33-34	理由無し。ただし30後半はちょっとどうなのかなと。	欲しい	2人か3人	3人以上だと確かに経済的負担はあるのかなと思うし。うん、逆に1人だと、その子ども寂しい思いさせてしまう可能性があるかなというのもあるし。
B氏	27	大卒	未婚	無し	寮	子どもが大きくなってから再就職した	有	40前後まで	ライフプランを考えて。子どもの独立年齢・資金などを考えると。	欲しい	3人欲しい	僕も3人きょうだいだから
C氏	26	大卒	未婚	無し	寮	ずっと家事・育児をしてきた	有	無し(早いほうがよい。かつては就職3年後)		欲しい		
D氏	27	院卒	未婚	無し	寮	子どもが大きくなってから再就職した	有	40前後まで		欲しい		
E氏	25	大卒	未婚	無し	寮	子どもが大きくなってから再就職した	有			欲しい	2人が限界だと思いますね。	だって3人、大学3年生、1年生、高校3年生で3人私立行った日にゃ、もう火の車だよ(笑)。だって、学費多分稼ぐためにアコムとか行かなきゃだめだよ(笑)。学費に送り込まなきゃいけない時
F氏	25	大卒	未婚	無し	実家(親と同居)	子どもが大きくなってから再就職した	有	無し	今ではないです。まだ仕事も始めて3年ぐらいで安定してないっていうのもありますし、これから転勤があった	欲しい	2人がいいですね。	
G氏	26	大卒	未婚	無し	寮	子どもが大きくなってから再就職した	いい人がいれば	無し				
H氏	27	大卒	未婚	無し	寮	ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	有	30前半(33－34)		欲しい	3人	結婚して2人ですよね。3人生まれたら1人分繁殖してしますもん(笑)。繁殖力で勝ったみたいな(笑)。
a氏	21	在学中	未婚	無し	実家(兄、父方祖母と同居、両	ずっと家事・育児をしてきた	有	意外と結婚年齢が何歳であるかということにとらわれなくてもいいか		有	ちょっと、理想では考えられないし、2人から3人じゃないですかね。	さっきも言ったとおり、社会的自己実現を目指さないとして、子どもが望む進路をとらせてあげたいという親心を計算すると、ぎりぎりじゃないですかね？　だって、高いんだもの、日本の教育
b氏	22	在学中	未婚	無し	実家(親と姉と同居)	ずっと自営の仕事や内職を続けてきた	有		やっぱり(親の年齢と子の年齢が)離れ過ぎちゃうと、もちろん育てたときにすごい年になっちゃうし、その後が	有	理想は2人。	1人だとやっぱり……。きょうだいがいるということで、それで人間的にというか、得られるものがあると思うんです。きょうだいという関係として成長していく中で何か、子どもにとって一人っ子で
c氏	21	在学中	未婚	無し	一人暮らし・西所沢(実家は北海	その他	有 (結婚したいんだけ			有	僕も2人です。	男1人、女1人。子どものことを考えているんじゃないですけど、自分が育てる場合として、男、女とではやっぱ違うと思うんで、経験できることは全部したいなという……。
d氏	22	在学中	未婚	無し	一人暮らし・所沢市(実家は愛知	子どもが大きくなってから再就職した	有			有	僕は正直何人でもいいんですけど。具体的に言うなら3人かなと思います。	その理由として、3人の兄弟というのが一番IQが高くなるという情報……。(笑)本当にそうなるかというのを……。(笑)3人ぐらいなら社会ができるんですね。子どもの社会。
e氏	22	在学中	未婚	無し	実家(埼玉県蓮田市、両親、父	子どもが大きくなってから再就職した	有	父が、多分おれが35歳のときにおれができたと聞いたので、それよ		有	多分僕も2人ぐらい欲しい。	理由としてはb氏と同じで。理想というのとは話がちょっと違ってきちゃうんですけれど、やっぱ2人以上、3人とかになってくると家計のほうが苦しいのかなとか……。
f氏	20	在学中	未婚	無し	一人暮らし・所沢市(実家は神奈	その他	有			有	自然に任せるで。(笑)	そんなに考えたことがないというか……。時々あるじゃないですか、こういう質問が。でも、あまりイメージがわかないというか……。
g氏	22	在学中	未婚	無し	実家(両親、兄父方の祖母と同居)	結婚前からずっとつとめを続けてきた	有	30の前で結婚したい、と思うんですが、やっぱり仕事のとかの	勝手にそう思っているんですけど、子どもができたときに親がある程度若いほうがいいなというのがあって。	有	僕は3人ぐらい。	きょうだいという要素は外せないというか、やっぱりあったらあったでいろいろ楽しいだろうし、いろいろ学ぶこともあるんじゃないかなと思って。自分が兄弟だからそう思うところもあると思うんですけ

未婚男性インタビュー要約

A氏
■年齢：26歳
■学歴：大卒
■婚姻状態：未婚
■子の有無：無し
■居住形態：寮
■母親の就業：ずっと家事・育児をしてきた
■家事能力：あり(結婚して自分が食事を作ってもいいと思ってる)。

■結婚の希望
有
■理想の結婚年齢
33-34歳
■結婚年齢の理由
理由無し。ただし30後半はちょっとどうなのかなと。
■理想の婚姻形態
・(妻は) 小学校中学年ぐらいまでは家にいて、そこから働き始めるぐらいがいいんじゃないのかな、やっぱり幼稚園に入る前まではやっぱり働いてほしくないっていうか、子どもの面倒を見てほしいんですけど。入ってからは基本的に、もう5時とかに終わる仕事はやってほしいんですよ。というのは、やっぱり労働者って同じ立場からのものの話し方ができるというか、対等の立場で多分話せると思うんで。一方で専業主婦になっちゃうと、やっぱりこっちが働いて頑張ってるのに、何で、何かさぼってんな的な。(笑) だから対等の立場っていう意味で、やっぱり働いてほしいなという。働いてる人の目線でものを話してほしいというか、というのがありますね。
■子どもがほしいかどうか
欲しい
■理想の子供数
２人か３人
■理想の子供数　理由
３人以上だと確かに経済的負担はあるのかなと思うし。
うん、逆に１人だと、その子ども寂しい思いさせてしまう可能性があるかなというのもあるし。
■子育て観
やらせたいことは全部やらせてあげたい

■子どもの性別の希望

運命です。

■子育てへの参加意識

(子供が生まれたばかりの時、ふだんは奥さんが日常の面倒を見てることを前提として、土日、自分が休みのときに奥さん並みに自分がやるつもりはある。)